

学校給食を『食事』から『誇り』へ

～「白石食の日」プレミアムアップグレード計画～

1

イタリアで受けた衝撃



2

1

イタリアと白石町の比較

| 比較対象 | イタリア（プーリア・トスカーナ） | 白石町の現状（課題） |
|----------|---|--|
| 農産物の捉え方 | <p>「土地の遺産（ストーリー）」 品種一つ一つに物語があり、オリーブをワインのように語る。</p> | <p>「商品」 品質は日本一だが、あくまで「食材」や「規格」として扱われがち。</p> |
| 若者 | <p>「誇り高きプロフェッショナル」 若者が農業に価値を見出し、最新技術と伝統を融合させて戻ってくる。</p> | <p>「担い手不足への不安」 「大変な仕事」というイメージが先行し、子供たちが将来の選択肢に入れにくい。</p> |
| 行政と住民の関係 | <p>「行政はサポーター」 住民や企業がやりたいことを、行政が制度や仕組みで後押しする。</p> | <p>「行政がプランナー」 施策を行政が考え、住民にお願いする。住民側の「自分ごと化」がまだ弱い。</p> |

3

白石町に足りないもの

愛と情熱



4

学校給食



5



「白石食の日」

昔から実施されて
いる。

毎月実施されてい
る行事食。

白石の特産物をた
くさん使用。

献立表や給食時間
の放送でお知らせ。

6

このままにしておくのはもったいない 「白石食の日」



- ・意外と記憶に残らない

実際に子どもの頃に食べていた私も覚えていませんでした。

- ・実施されていることを知っている人が限られている。

おそらく給食を関わる人しか知らないのでは？

- ・子どもたちは食べることに夢中

カレーかカレー以外か

7

「白石食の日」プレミアムアップグレード計画



8

五感で楽しむ 「プレミアム お品書き」



9

地元愛を育むコンテンツ

農家の情熱や誇りを子どもたちに届ける仕掛け

・白石農業クイズ

白石町の高品質な特産物にちなんだクイズを出題
→地元特產品についての知識の向上、誇りの醸成



・作業動画やインタビュー動画

給食時間中に農家さんのインタビューや作業動画を電子黒板で放映
選果や箱詰めのタイムトライアルといったコンテンツを作成するのもあり
→農業への興味、「やってみたい」を増やす。

10

未来×未来



佐賀農業高校との連携

・高校生アンバサダー

佐賀農業高校の生徒に協力してもらい、自分たちが育てた野菜や、研究している農業技術について給食時間に解説してもらう。

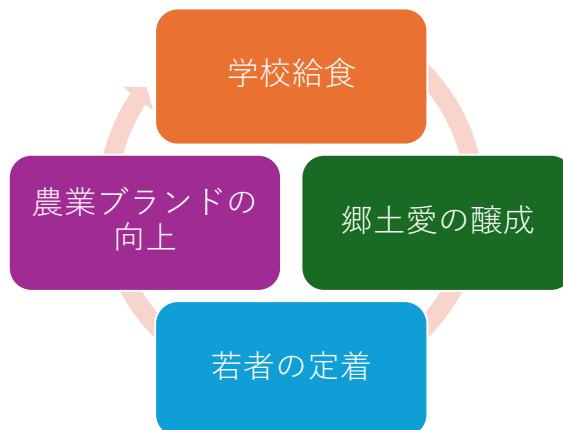
期待できる効果

先生や行政職員が教えるよりも、高校生が語る方が子どもたちには「かっこいい未来の姿」として響く。

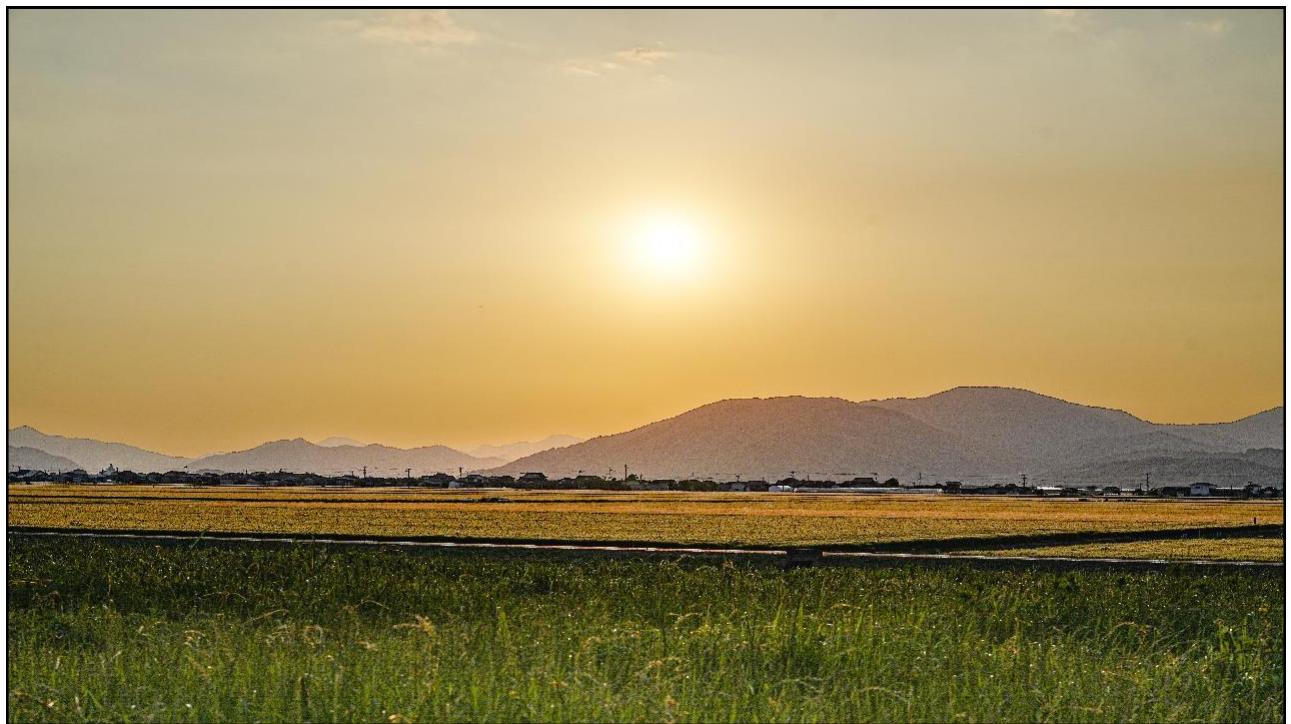
これは将来の担い手育成に直結する。

11

誇りが町を強くする（イタリア式）



12



13